

つぎの文しよを 読んで、 もんだいに 答えましよう。

先生のお話を聞いたあと、「あれ、何をもってくるんだったかな。」と、こまっていたことはありませんか。聞いたことは、しばらくすると、わすれてしまうことがあります。そんなときにやくに立つのが、メモです。

メモとは、大切なことを、みじかく書いておくことです。ぜんぶを書かなくてもかまいません。「あした 絵のぐ」「月曜日 図書の本」のように、あとで見分かることだけを書きます。

メモをとると、よいことが二つあります。一つ目は、わすれても、メモを見れば思い出せることです。二つ目は、書くときに「何が大切な」を考えるので、話がよく分かるようになることです。

メモは、いつも同じ手ちょうに書くようにしましょう。そうすると、あとでさがしやすくなります。

聞いたことを、自分の手で書いてのこす。それだけで、わすれものは、ぐんとへるはずですよ。

(このもんだいのための書きおろし)

(一) メモとは、どんなことですか。「こと」につづくように、文しようにから二十字まで書きぬきましょう。

[illegible]

(二) メモには、どんなことを書けばよいと書いてありますか。アゝウから一つえらびましょう。

ア 先生の話、ぜんぶ書く。

あとで見分かることだけを書く。

ウ 自分のすきな絵をかく。

(三) メモをとると、よいことが二つあります。二つとも、三十五字までで書きましよう。

[illegible]

(四) メモをいつも同じ手ちように書くと、どうなりますか。「なります」につづくように、文しように十字までで書きぬきましょう。

[illegible]